

令和3年度
自己評価報告書

令和4年3月31日

学校法人 城西学園
城西放射線技術専門学校

- ・学則第4条に基づき自らの運営状況について自己点検・評価を実施した。
本校の教育活動の状況を自ら点検・評価し改善点を今後の教育活動に活かすことを目的とし、毎年実施するものとする。
- ・評価の結果、改善を要する項目は学校長の改善指示のもと担当者は速やかに対応し、改善状況を学校長へ報告するものとする。
- ・評価は、「専修学校における学校評価ガイドライン」を基に4段階評価（4：大変良い 3：良い 2：あまり良くない 1：良くない）とした。

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

本校は現在地にて昭和 35 年 4 月 1 日付、城西レントゲン技術専門学校として発足

昭和 46 年 4 月 1 日付、城西放射線技術専門学校と名称変更

昭和 51 年 6 月 1 日付、私立専修学校として認可

診療放射線学科のみの夜間課程単科校であり、修業年限は 4 年である。診療放射線技師養成校として現代医療に求められる知識と技術の習得、信頼される人間性を養うということを教育の柱としている。

(1)入学時から一貫して国家資格取得が教育目標。

(2)城西学園校訓に「報恩感謝」を掲げており、恩や恵みに対して感謝の気持ちを持つことをいう。

これまでに受けた恩や恵みに感謝し病んだ人を思いやり医療人として恩に報いる、奉仕の精神を持つ医療人の育成教育を目標としている。

(3)本校の入学受入れ方針は以下の通りである。

- ・ 専門学校で学ぶことに対して確かな目的意識を持ち、学ぶ姿勢を大切にする方
- ・ 社会人としての自覚を持ち、職場や学校での言動、身だしなみについて礼儀や常識を心得ている方
また、そのことについて学ぶ姿勢を持つ方
- ・ 心身ともに健康な方で、公私に関わらず、他者への思いやりを持っている方
- ・ 医療の現場はチーム医療が重要であり、コミュニケーション能力・連帯感を常に意識している方
- ・ 医療および医療技術に関心を持ち、適正があると考えている方

(4)職業教育を行う上では、病院等と連携した授業・実習が不可欠である。

学内における授業に加えて、学外での関連企業の工場見学、病院見学等を通じて専門性を養い、早い段階から医療現場における診療放射線技師の在り方を考える機会を与えている。

【課題・改善策】

- ・ 校訓の「報恩感謝」とは自己の正しい認識と把握によって、人として自らの不完全さを自覚した時、天地自然の多くの恵みを受けて、生かされていることに気づき、家族をはじめ周囲への感謝の想いが自ら湧き上がってくることを意味する。感謝し、感謝される医療人の育成に努める。
- ・ 就職先になる病院で求められているニーズを把握し、短期的、中長期的と細分化して教育目標と求める人材育成にあった指導を行う。

	評価項目	評価
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められている	4
2	教育理念・教育目標・育成人材像は専門分野におけるニーズに伴っているか	4
3	理念達成に向けた教育活動を行っている	4
4	教育理念・教育目標が周知されている	3

基準 2 学校運営

- (1)原則、隔週実施される全員参加の職員会議では教職員が議題を発案・内容発表。会議後は議事録を作成し、次回会議の冒頭で前回の議事録の実施状況確認している。
- (2)城西学園理事会・評議委員会において本校は評議員・事務局として出席し、事業計画や運営方針などの決定事項を職員会議にて報告し、教職員全員へ周知徹底している。
- (3)期初に教務部、事務部の「業務分担表」を作成し、教務事務の担当および執行内容を具体的に示している。特に授業に関しては、カリキュラムに基づき「授業時間割表」を前期・後期作成し、教育活動への運営責任を明確にしている。
- (4)教職員の情報共有を目的とする共有フォルダーを導入。昨年度は容量を増やし、活用している。
- (5)ホームページ学内専用サイトおよび学生専用携帯サイトを利用して学生への緊急連絡（気象状況の影響やストなどによる臨時休校）授業時間変更・就職情報等を発信し、その他学生への連絡事項等を掲示している。
- (6)学校法人 城西学園（中学・高等学校、放射線技術専門学校）として規程や運営については連携をとっており、教職員がクラウドシステム利用によりコロナウィルスへの対応など情報の共有化を図っている。

【課題・改善策】

- ・診療放射線技師学校養成所指定規則に定められた基準に準じてカリキュラムや設備等を備えており、教職員の勤怠についても有給取得の義務化に伴い就業規則の見直しを図るなど、状況に応じた対応を行っている。
- ・ネットワーク環境が脆弱になることも多いため、原因究明が急務。
今後は在宅勤務でも対応できるようなシステムの構築を検討する。

	評価項目	評価
1	目的に合った運営方針が策定されている	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されている	3
3	運営組織や意思決定機能は規則等において明確化され、有効に機能している	4
4	人事、給与に関する規定等は整備されている	3
5	組織整備など意思決定システムが整備されている	5
6	教育活動に関する情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っている	3

基準3 教育活動

目標の設定

- (1)本校のカリキュラムは国家試験合格を柱としたものであり、目標達成に向け十分な内容で体系的に構成されている。各科目の教育目標はシラバスに明記し、授業初日にも学生へ改めて周知している。
- (2)学生より専任教員・非常勤講師の授業評価のアンケートを無記名で実施し、教育の質を高めている。その結果をフィードバックし各教員には授業の改善点等の提出を依頼。学生の意見を考慮した授業改善に活用している。
- (3)成績評価・単位認定の基準は「学生便覧」に記載しており、入学時のガイダンスにて周知している。また、進級判定・卒業判定は、教員全員が参加による進級判定会議・卒業判定会議にて規定に基づき行われている。
- (4)本校にて編集した実力・模擬・総合試験問題集を全教員、3・4年生に配布し、授業と自習に役立てている。
- (5)診療放射線学科のみの単科校である本校は、教員間で授業の進捗状況や方法について日常的に話し合われており、職員も含めて改善についての意見交換をしている。
- (6)実習前には機器操作などはもちろん、研修で外部講師を招いて病院での接遇や社会マナーを学ぶ機会を設けている。昨年度よりマナー以外にもエクササイズなど幅広い講義で学生に好評だった。

【課題・改善策】

- ・新カリキュラムについて非常勤講師を含めて教員全員が内容を把握し、指導にあたる。
- ・外部からの教育活動についての意見は真摯に受け止めなければならない。特に医療現場で働いている卒業生は在学中に働きながら資格取得をした者が大半であり、有用な意見が期待出来るため、今後は同窓会などと連携し積極的に意見を取り入れていきたい。

	評価項目	評価
1	理念・目的に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めている	4
2	学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4
3	授業評価の実施・評価体制は整っているか	3
4	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確か	4
5	資格取得に関する指導体制は確立されているか	3
6	教員の資質、指導能力向上のための取り組みが行われているか	4

基準 4 学修成果

- (1) 昼間に病院等のアルバイトに従事している者も多く、病院実習の際には患者接遇や病院内での対応について評価されるケースも多い。
アルバイト先へ就職する者もいるため、勉強の妨げにならないことを前提に医療機関へのアルバイトを紹介している。
- (2) 入学者全員が国家試験に合格することが開校以来の目標。退学に繋がる理由は担任がヒヤリングし、解決に努めている。退学者の前兆として欠席が多く、担任からの連絡にも応じなくなる。無断欠席や欠席過多の者は担任が保護者と連携し、学習意欲と継続の意思確認を行っている。
- (3) 臨床実習施設へ訪問の際に情報交換を行っているほか、同窓会ネットワークを活用し、就職希望者には決定まで就職支援を行っている。また、卒業後に離職した卒業生に対しても同様の支援をしている。
- (4) 本年度は国家試験を控えた4年生を対面授業とし、直接指導するよう努めた。しかし学生の中には病院勤務している者も多く来校を遠慮する者もいたため指導が行き届かなかった。
次年度の4年生は3年間のうち2年間をオンライン中心の授業だったため、より細やかに指導をしていく。

【改善策】

- ・病院で勤務している学生が多いため対面授業のみにすることが出来ず、1年から3年はオンライン授業との併用を行った。オンラインでは各自の理解度や状況把握が難しく理解度に個人差が出てしまう。今後はやむを得ない場合を除き対面授業を行う。
- ・2022年度の3年生は入学時からコロナウィルス感染症による影響を受け、学校行事や授業にも制限があった学年。病院実習を控えて指導に不足がないかを再度確認する。

	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られている	4
2	資格取得率の向上が図られている	3
3	退学率の軽減が図られている	4
4	卒業生・在校生の社会的な活動や評価を把握している	3

基準 5 学生支援

- (1) 就職等進路についても、国家資格の取得が大前提であり、取得しない場合は内定が取り消されるため、就職責任者だけでなく担当教員と連携し、成績と就職活動について個別指導をしている。
卒業後も在校生と同様に就職支援を行っており、転職希望の学生の相談にも応じている。
- (2) 退学者を増やさない対策として、担任が個人面談で現状の問題についてヒヤリングを行い、必要に応じて心理カウンセラーが精神面でのサポートにあたっている。担任教員と本人との面談以外にも状況により保護者・保証人へ連絡しているほか、職員会議において、学生の出席状況等を担任が報告し、職員を含めた全員で注意を払い学生の状況を共有している。
- (3) 現状の学力を把握してもらうため前・後期試験終了後、保証人宛に「定期試験成績表」（科目毎の点数と単位取得の可否）を送付し、学生サポートの協力を仰いでいる。
- (4) 授業が理解出来なかった学生は、担当教員へ個別に質問する他に、専用のメールアドレスへ質問が可

能。また、4年時には授業前に講義（補講）を行い学生の学力向上に役立っている。

(6)同窓会の活動として年1回の同窓会誌（年会費納付者）、適時会報の発行を行っている。

年1回実施している総会・学会には在校生も参加し、臨床現場の情報や学生時代の勉強法など情報交換・交流の場となっているが、コロナウィルス感染症対策のため近年は中止されている。

(7)本校入学生は現状社会人が50%強を占めており、勉強に空白のある者も多い。事前学習の課題としてオンラインで行う自主学習 e-ラーニング（1年間利用可）を設け、学習計画表と共に事前学習・自己学習の場を提供している。

(8)奨学金などの支援を受けている学生も多く、授業料の納入期日までに入金が難しい学生については担任を含めて相談に応じ、柔軟に対応している。

【課題・改善策】

- ・社会人を経て入学した学生は特に、保証人が形だけとなっているケースが見られる。その際は保証人と学生との間で連絡が密でないため、学生に対しての問題解決を連携することが難しい。
入学に際して、保証人には学生の問題が生じた際の協力を依頼している。
- ・学業面と金銭面の両方に問題を抱えている学生は勉強に費やす時間がなく、勉強に力を入れたら金銭面で苦勞するという負の連鎖が起こっている。本人の努力次第ではあるが、保証人と連携してフォローしていく。
- ・入学時の学力に差が大きい。特に社会人など勉強に空白がある者には事前課題である e-ラーニングを積極的に行うよう伝える。また、1年次の理数系科目の補講授業に積極的に参加するよう促す。

	評価項目	評価
1	進路指導に関する体制が整備されているか	4
2	学生生活に関して相談できる環境は整備されているか	3
3	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
4	学生の経済的な支援体制はあるか	2
5	保護者と適切に連携しているか	3
6	卒業生への支援体制はあるか	2
7	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	4

基準 6 教育環境

本校の施設・設備

- (1)設備や清掃等のメンテナンスを定期的実施。機器の管理補修も必要に応じて行われている。
- (2)病院実習は事前に受け入れ先とも十分な協議をし、適切に連携している。1年次には診療放射線技師の業務を見学するべく病院見学を実施しモチベーションの維持向上に努めているが、コロナウィルス感染症の影響から近年では中止されている。
- (3)「学校法人城西学園 消防計画」を作成し、消防設備等についても、法定点検を実施。学内に設置している自動販売機は緊急時飲料提供自動販売機であり、非常災害時に対応可能。事務職員が防火・防災管理者の資格を取得し、災害時の対応にあたる。
- (4)図書室にはインターネット閲覧可能なパソコンが6台備わっており、午前10時から使用できる。書籍は定期的に見直され、教員がニーズに合わせて選定し購入している。
- (5)病院実習先は平成28年に10施設追加され、実習後に授業を受ける夜間課程の学生にとって効率化が

図れた。

【課題・改善策】

- ・大雨、台風が警報された際の設備点検。特に地下は画像機器を設置しているため、清掃・点検には注意が必要。
経常的に建物の異常や対策には全員が注意し異変を感じたら、建物・設備担当者へ報告し対応する。
- ・避難訓練を実施している。特に夜間課程のため非常灯での避難が必要なため、日頃から防災意識を持って行動する。
- ・大幅にシステムを変更、再構築するには負担が大きいと思われるので、計画を立てて規定・制度を整える。

	評価項目	評価
1	施設・設備は教育上、十分に対応出来るよう整備されているか	3
2	学外の実習やインターンシップについて十分な教育体制が整備されているか	3
3	防災に対する体制は整備されているか	4

基準 7 学生の募集と受け入れ

- (1) 既卒者は募集活動が難しい。医療機関で本校の卒業生と働いている人も多いため、在校生にとって知人に勧められる学校であり続ける教育をすることも必要とされる。
- (2) 学校説明会実施後は教職員・学生説明員が改善点などを報告書に記載し、改善に努めている。
- (3) コロナ禍において生活様式も変化しているため、地方の方も参加しやすいようオンライン説明会を開催。特にまん延防止等重点措置が施行された際など、移動に不安がある方から好評を得た。

【課題・改善策】

- ・学校説明会では参加者の人数に差があるため、日程や内容を見直す。
- ・高校卒業からブランクのある受験生への広報活動の検討。
- ・本校を志望する学生は必ずホームページを必ず閲覧する。去年はサイトの不具合が生じたため、トラブルに対して早急に対応できる業者の選定を行う必要がある。

	評価項目	評価
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	教育成果の情報提供は正確に伝えられているか	4
3	入学選考は、構成かつ公平な基準により行われている	3
4	学納金は妥当なものとなっている	3

基準 8 財務

- 1)校舎設立時の借入金はあるが、財務基盤は安定している。
- 2)予算は計画に従って妥当に執行されている。年度予算編成にあたり、学納金収入等を見て中期計画を

適宜見直して策定している。

3) 財務については会計監査、学園で監事による監査も行い適切な対応をしている。

【課題・改善策】

- ・機器装置は高額なものが多いため、計画的に購入する必要がある。
- ・学生数の安定化が収入の安定、予算作成にも影響してくる。学生が勉強に専念しやすい環境を作り国家試験合格者を一人でも多く輩出するため、学校が一丸となって取り組んでいく。
- ・経費を削減できるものと予算が必要なものとメリハリをつけるために、年度ごとに重点を置く内容を決めて整備する。

	評価項目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
3	財務について、会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	5

基準 9 法令等の遵守

- 1) 関係法令及び設置基準等を遵守し、関係省庁の指導のもとに適切に学校運営されており、関係省庁からの通知、通達等の内容を学内で共有し、報告等も適切に対応している。
- 2) 個人情報の利用について目的を定め、取り扱いについての同意書を取っている。この取り扱いについては教職員周知し、遵守を心掛けている。資料請求者、学校説明会・体験入学者等の個人情報は目的以外には一切使用していない。
- 3) 学内で使用するパソコンに対して情報流出保護システムを導入している。
- 4) 自己点検・自己評価は年に1度行われているほか、必要に応じて職員会議で問題提起をして対応している。
- 5) SNS 利用に際して責任が伴うことを入学時と実習前に再度指導している。

【課題・改善策】

- ・ハラスメントに関しての服務規定が文書化されたので、教職員へ周知し遵守するよう促す。
- ・自己点検で見えた改善点について、長期的に計画が必要な案件への対応。

	評価項目	評価
1	法令、設置基準を遵守し、適正な運営がされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己点検・自己評価の実施と問題の改善に努めているか	3
4	自己点検・自己評価の結果を公開しているか	5

基準 10 社会貢献・地域貢献

- (1) 城西中学・高等学校の文化祭（しいの木祭）実施時、本校も医療関連の公開講座および種々の医療機器の見学・体験実施を通じて地域住民と交流を図っているが、令和3年度は実施できなかった。
- (2) 本校に届くボランティア募集の案内は掲示しているが、夜間校である本校は昼間に働いている学生が多く、社員としてフルタイムで働く学生もいるため、1週間のスケジュールを見ても活動にあてられる時間自体が取れないのが現状。
- 今後は城西学園として地域のニーズに応えられるボランティア活動には積極的に参加を検討する。
- (4) 新入生に現在行っているボランティア活動とやってみたいボランティア活動の調査を実施。学校が主体となって出来ることはないか、常に検討している。

【課題・改善策】

現実的に実施できそうなボランティア活動がなく、実施に至っていない。

強制はできないため、気軽に参加出来るものはないか検討する。

	評価項目	評価
1	学生の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
3	地域活動に積極的な参加をしているか	1